

◆本計画に期待すること・・・

コラム13 空閑 浩人 同志社大学社会学部社会福祉学科 教授

(滋賀県社会福祉審議会総合企画専門分科会長)

「人一人ハ大切ナリ」。私が所属する同志社大学の創立者新島襄の言葉です。一人の学生を大切に
大学でありたいという新島の教育理念を表した言葉ですが、社会福祉・地域福祉も同じだと思います。

「一人を大切にす支援と一人が大切にされる社会や地域をつくること、そしてそれを守り、継承すること」。この度の「滋賀県地域福祉支援計画」の策定にあたって私のなかで大切にしてきたことであり、これからの滋賀県の地域福祉に期待したいことです。

コラム14 村松 明日香 滋賀県社会福祉審議会総合企画専門分科会 委員

社会の変化に伴い、既存の制度では対応しきれない地域生活の課題が顕在化し、滋賀県においても地域福祉をめぐる課題に対応することが求められています。私は視覚障害を有しており、私の生活は福祉制度に支えられています。私は一人の滋賀県民として、また視覚障害の当事者として、新しい滋賀県地域福祉支援計画が実行され、滋賀県の地域福祉が一層充実することを願っています。

コラム15 山口 浩次 龍谷大学社会学部総合社会学科 教授

(滋賀県社会福祉審議会総合企画専門分科会 委員)

「つながり、支え合う」地域づくりは、制度だけでは実現できません。審議会での1年間の議論は、現場の声を言葉にし、未来への道筋を描く貴重な時間でした。福祉の魅力は、人の力を信じ、希望を紡ぐ営みにあります。今回の計画が、誰もが自分らしく生きられる未来をひらく力になることを願っています。

◆子どもの声を聴く取組

本県は、令和7年4月に「滋賀県子ども基本条例」を施行し、子どもの意見や声を聴き、県政に反映する取組を推進しています。

そのことから、滋賀県子ども若者部が実施する「滋賀の子どもの声調査」のうちの「WEB調査」を活用して子どもの意見を聴取し、本計画の策定にあたって、意見の反映や方向性の参考にさせていただきました。

本調査を通じて、滋賀の子どもたちが思う共にいきる地域とは何か、多くの意見が寄せられたため、計画の参考資料とするためワードクラウド分析を行いましたので、その概要等を報告します。

1 調査の概要

調査期間：令和7年（2025年）7月1日（火）～7月31日（木）

調査対象：県内の小学1年生～大学生世代

調査方法：WEB調査

調査テーマ：共に生きる地域づくり

質問項目：全ての人が笑顔で安心して暮らせる地域はどのような地域か

2 回答数

対象	回答数	質問項目
小学1年生～3年生	60人	あなたは、みんなが、えがおで、くらせるまちは、どんなまちだとおもいますか。
小学4年生～6年生	514人	あなたは、みんなが笑顔で安心してくらせるまちとは、どんなまちだと思えますか。
中学生・高校生	839人	あなたは、すべての人が笑顔で安心して暮らせる地域とは、どのような地域だと思えますか。
大学生	16人	
その他	21人	
計	1,450人	

3 回答内容の分析

<ワードクラウド（スコア順）を用いた分析>

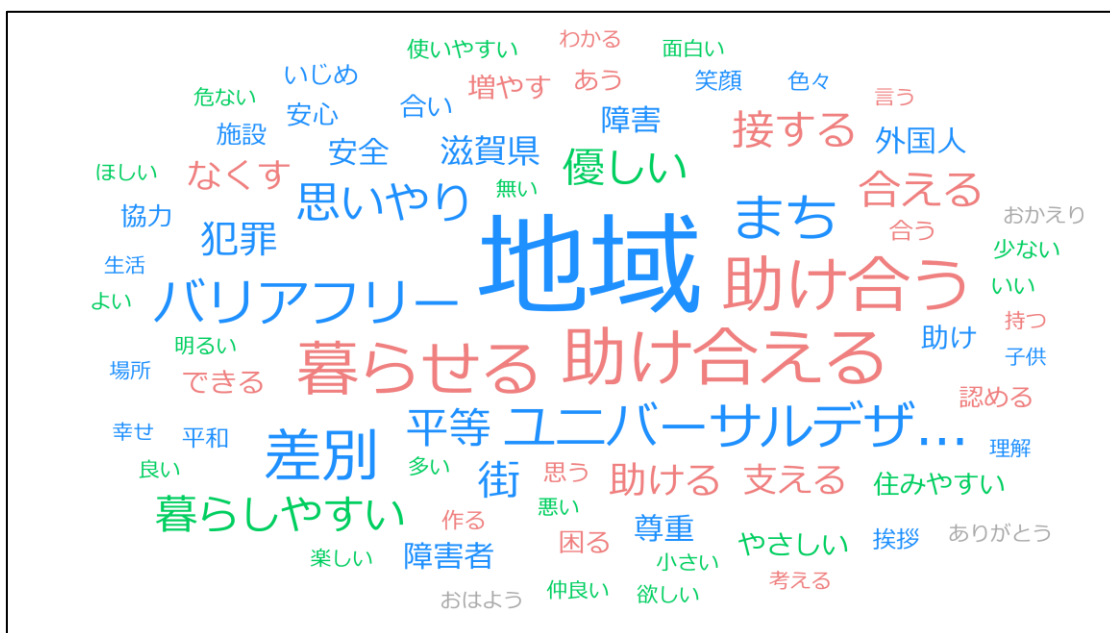
ワードクラウド・・・

スコア（重要度）が高い単語を複数選び、その値に応じた大きさで図示。

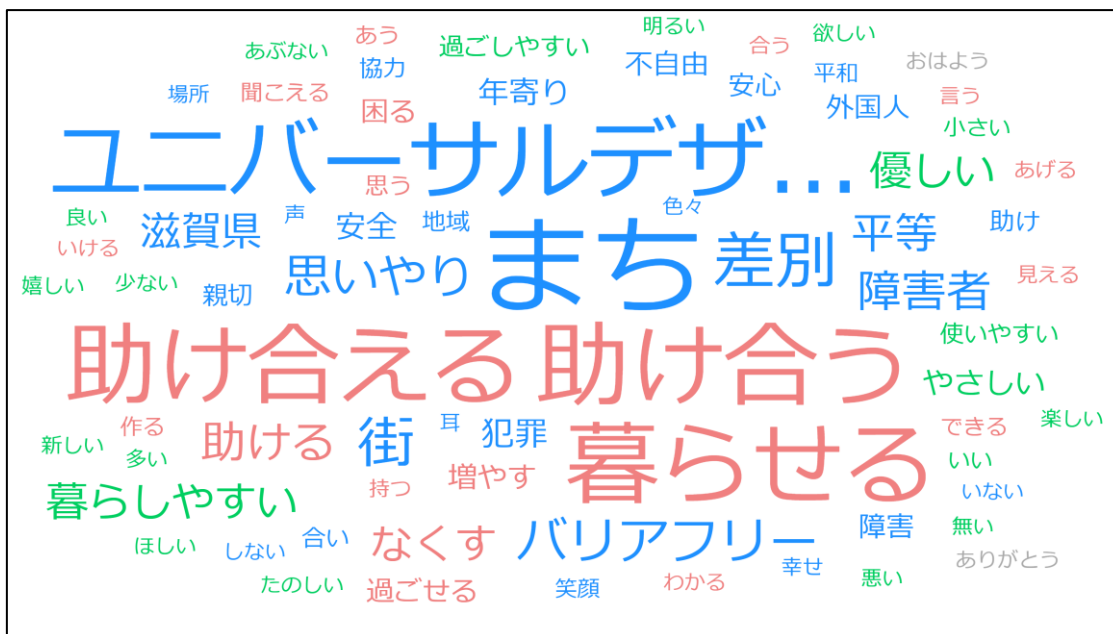
単語の種類は、**名詞**、**動詞**、**形容詞**・**形容動詞**

※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析(<https://textmining.userlocal.jp/>)

【全体】

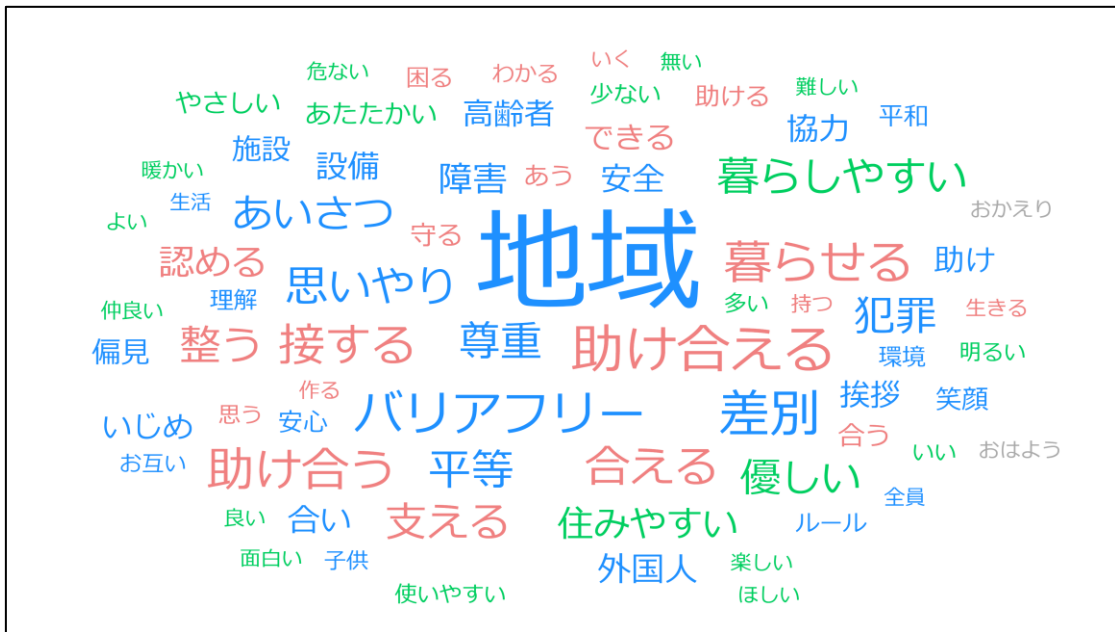


【小学生】



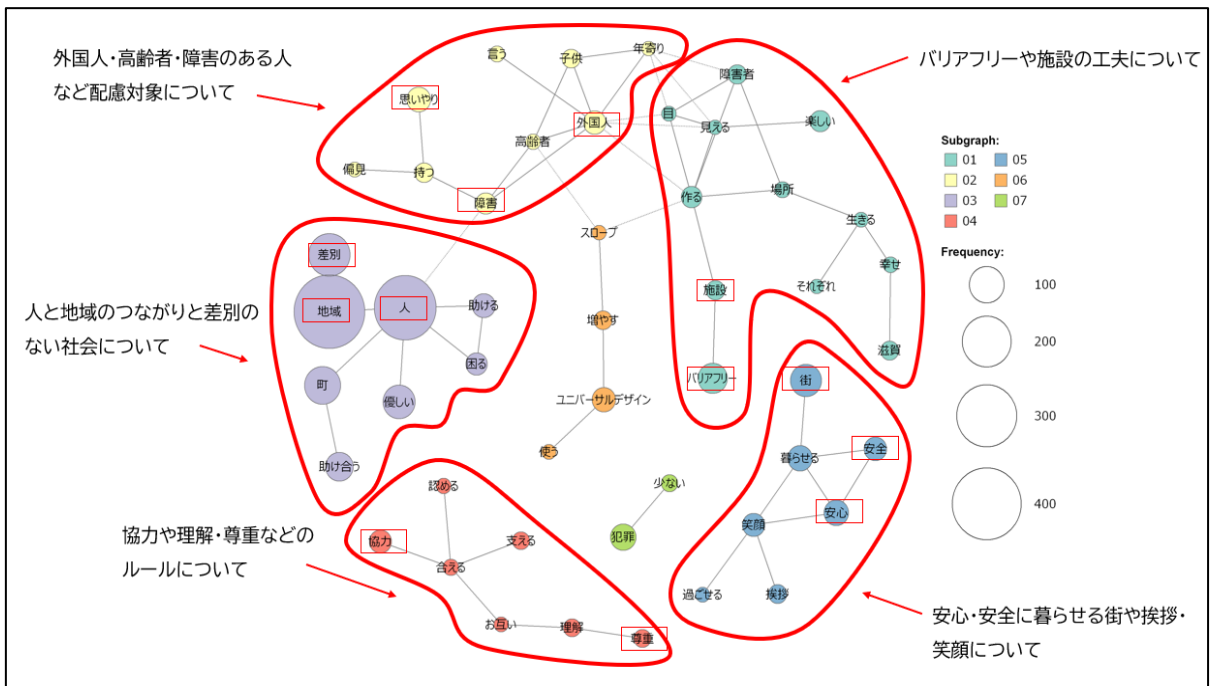
※小学1～3年生の回答数が少ないため小学生でまとめて分析

【中学生・高校生】



<共起ネットワークグラフを用いた分析>

一つの文章内で同時に出現（共起）するキーワード間に何らかの関連性があると仮定して集計し、出現頻度が上位のキーワード（点）と関連性（線）から成るネットワークグラフとして可視化したもの。出現頻度が高いキーワード（点）ほど、大きく表示される。



4 意見に対する子どもへのフィードバック

主な声	県の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害のある人への差別がない平等な社会になればいいと思う。 ・ 障害のある人を理解するとともに、障害のある人もない人もお互いが大切にしかえる社会を目指すことが大事だと思う。 	<p>みなさんがお互いに大切にしかえる社会の実現に向けて、学校や会社などに出前講座を行うなど、みなさんに障害のある人のことを知っていただくための取組を進めています。今後もみなさんの理解が深まるよう、いろいろな機会に情報を発信していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手話や点字などでコミュニケーションをとる人にも配慮し、思いやりのある社会が実現すればよいと思う。 	<p>それぞれの障害の特性によって、コミュニケーションをとる方法は一人ひとり異なります。一人ひとりが自分に合った方法でコミュニケーションをとれるよう、みなさんの理解を深めるための取組を進めています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害のある人や高齢者などが移動しやすいよう、スロープや手すりがあれば良いと思う。 	<p>誰もが住みたくなるまちを目指して、施設の通路の段差をなくすことや車いす駐車場の数など、多くの基準を定めて取組を進めています。</p> <p>また、スロープや手すりなどを設置したい際には助成金による支援も行っています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 犯罪がない安全なまち、みんなが笑顔で暮らせるまちになるといい。 	<p>犯罪がなく、みんなが笑顔で暮らせるように地域全体で協力していくことが大切です。</p> <p>また、被害にあわれた方々がふだんの暮らしを取り戻せるよう支援し、罪を犯した人が再び罪を犯すことなく立ち直れるよう支援する取組も進めています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国の人、耳の聞こえない障害のある人、高齢の人などみんなが安心してできるようにしてほしい。 	<p>様々な生きづらさがある人を「だれ一人取り残さない」社会とするため、その人や家族、地域などが感じる複雑な課題が少しでもなくなるように取り組んでいきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ お互いに協力し、みんなの違いを理解し、やさしい気持ちを持てる社会になってほしい。 	<p>誰もがみんな自分らしく幸せを感じられる社会となるように、みなさんがふだん暮らしているところが「つながり、支え合う」ことができる地域となるよう、みんなで取り組んでいきましょう。</p>